

2014年10月12日 主日礼拝
説教「あわれんでください」
マタイの福音書 15章 21-28節

【救い主なる神を知る】

今日も教団の教会学校用教案誌「牧羊者」の聖書箇所からの説教。「牧羊者」には、一年間を通じて、一貫したテーマがあります。2014年度のテーマは「救い主なる神を知る」。今日もこの箇所から、救い主なる神を知らせていただきます。すでに神さまを知っている私たちだけでも、なお知らせていただきます。

「知る」というのは知識として知ることではありません。「知る」ことは、かかわること。人格と人格がぶつかりあうようにして触れ合うこと。毎日毎日、神さまとともに歩き、その歴史を積み上げていくことです。

【異邦の女の大きな信仰】

主イエスは、「ツロとシドンの地方」(21)へ。そこで、カナン人の女性とお会いになりました。彼女は、「主よ。ダビデの子よ。私をあわれんでください。娘が、ひどく悪霊に取りつかれているのです」(22)と叫びます。「あわれんで」は、強い言葉です。「人の悲鳴を聞いて駆けつける」という意味なのです。「主イエスよ、私の悲鳴を聞いてください。私の悲鳴を聞いて、駆けつけて助けてください」。女性は、そう言いました。

ところが主イエスは、とても冷たい態度です。

最初は「イエスは彼女に一言もお答えにならなかった」し、二度目は、「わたしは、イスラエルの家の失われた羊以外のところには遣わされていません」(24)と言われました。そして、三度目は「子どもたちのパンを取り上げて、小犬に投げてやるのはよくないことです」と拒絶されたのです。

けれども、この女性は、「主よ。そのとおりです。ただ、小犬でも主人の食卓から落ちるパンくずはいただきます」(27)と食い下がるのです。すでに三回拒絶されても、まだ願うのです。四回目の拒絶にあっても、五回目の拒絶にあっても、やはり「助けてください」と言い張り続けたにちがいないのです。ある有名な牧師が、ここについて、「この女性は、神に逆らっている」と言いました。「神に逆らって、神に祈り続けている」と。確かにそういう言い方もできると思います。主イエスに、三度も逆らい続けている。そうして逆らい続けた結果、起こったのは、神である主イエスが女性の言うとおりになるということ。いわば、神さまが顔をそむけておられるのを、むりやりこちらの方に向けさせてしまったのでした。

主イエスは「ああ、あなたの信仰はりっぱです」とおっしゃいました。これは、「あなたの信仰は大きい」という意味の言葉です。主イエスは女性の大きな信仰を喜ばれました。神をも振り向かせる、大きな信仰に微笑まれたのです。

この女性が、このような大きな信仰を持つことが出来たのは、主イエスがあわれみ深いお方であることを信じたからです。主イエスがどんなに冷たくされても、主はほんとうは自分をあわれんでくださっていると信じたからです。

けれども、もうひとつ覚えておくべきことがあります。それは、この女性の信仰を大きくしたのは主イエスであったこと。女性の願いを最初から受け入れるのではなく、彼女の信仰を主が引き出されたのです。主イエスは、冷たい顔をよそおいながら、心の中では、この女性が食い下がり続けることを望んで、祈ってくださっていました。そうやって、女性の信仰を引き出してくださったのです。

私たちのためにも、主イエスは祈って、私たちの信仰を大きくしてくださいませ。目に見えるところは、祈りが聞かれていないようであっても、なお、神さまのあわれみを信じる大きな信仰を与えてくださるのです。

【安心して失敗できる教会】

教会が、安心して失敗できる場所であったならと思います。どんどん失敗して、どんどん覆い合い、どんどん成長する教会。それは、主イエスを信頼する教会です。とりかえしがつかない失敗であっても、主イエスを信頼して、なんとかなってしまうまで覆い合うのです。それは、大きな信仰だけにできることなのです。主イエスのすばらしさを讃えましょう。